

今 地震が起きたら ～心構えと対策してますか～

阪神・淡路大震災から12年余りが経過し、防災意識が低下してきたと言われていますが、新幹線が脱線した新潟県の中越地震や、今年3月に発生した能登半島地震などの被害をみると、改めて地震への備えは大切だということがわかりますね。災害はいつやってくるかわかりません。いざという時のために、常に防災に対する意識を持ち、しっかりとした対策をとっておきたいですね。そこで今回は、地震に対する心構えや対策のポイントについてみんなで話し合いました。

市民広報員



池田



蒲生



清水



戸田



森川

イラストは蒲生さん作



平成7年1月17日早朝に発生し、死者が6,434人も出た阪神・淡路大震災の様子（倒壊した家屋や街路樹）

突然だと何もできない？

この間の能登半島地震のとき、みんな何してた？

私は、家の中で掃除をしていて、ぐらつときたからどこかなって思ってた。

僕も家でテレビを見ていました。そうしたらあまり地震のない能登半島なのでびっくりしました。

私は外で洗濯物を干していたから気づかなかったわ。僕も外にいたから気づかなかったな。



蒲生さんが準備をされている家族の非常持出袋

家族の分の非常持出袋は準備しているけど、そこまではしていないわね。

みんなの分を用意しているだけでもすごいわね。そのほかに何かやってるの。

それがなかなかできなくて、家具なども固定しないと行けないと思うんだけど、なかなかできないの。

本当ね、家具はつっぱり棒や固定金具で固定し、テレビやパソコンは免震シートを貼りつけて倒れたり飛び出さないようにしないといけないんだけどね。

僕は家にいるより外に出ることが多いから、家族との連絡方法が、一番大切になってくるので、何かいい方法はないかな。

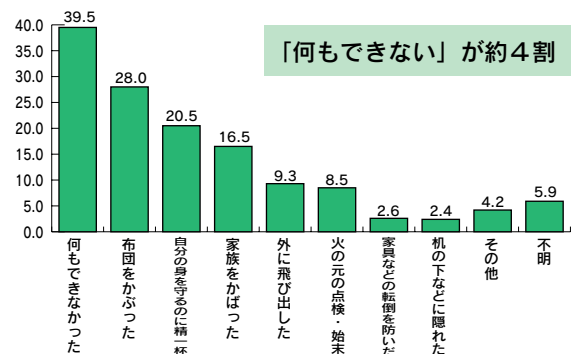
でも、阪神・淡路大震災の時は、さすがに気づいたわ。すごかったもの。

ほんとですね。あのときは僕もびっくりして目をさしました。でも、何もせず布団の中にいたように思います。それに、先日、ポトピアランドの自宅で被災した人から話を聞いたんですが、「何もできずベッドの両端をつかんで、されるがまま揺られていた」とって言われてましたよ。



本当ね、いざという時に何もできないかもね。

阪神・淡路大震災時にとった行動（複数回答）%



「何もできない」が約4割

（「阪神・淡路大震災時における消防活動の記録」神戸市消防局編）

長浜市でも起こるかも？

このあたりは大丈夫かしら？

昔、このあたりでも姉川地震があったし、琵琶湖西岸断層帯の地震発生確立は高く、全国で7番目だから起こるかもしれないね。

【姉川地震】

1909年（明治42年）8月14日に滋賀県北東部の姉川付近を震源に起きたM6.8の大地震。死者41人、負傷者784人、全壊家屋978戸、半壊2,444戸の被害が出た。

姉川のすぐそばに住んでいるので何だか人ごとじゃないって感じがするわ。それに、堤防が切れたら大変だわ。

震源地はうちの家の近くだったんだ。ということは、うちの家や僕のおおじいさんとおおばあさんは、姉川地震を体験したんだな。そう考えると地震が身近に感じられますね。

本当ね、そうすると、このあたりでもまた起こるかもしれないから、日ごろからいろんな準備をしておかないといけないわね。

で、まずはその意識を変えないとね。

そうですね。まずは意識を変えることが大切ですね。

僕は、今回、姉川地震のことを聞いて、少し意識が変わりました。今後は、その意識を持ち続けて生活を見直していきたいと思っています。

百年前にこのあたりで大地震が起きたことを思うと少しづつでもやっていかないとね。

まずは行動をとることで、僕は早速、テレビに免震シートをつけ、非常持出品などを充実させようと思います。

テレビや冊子を見たり、被災体験者の話を聞いたりして、頭ではわかっていても意識は「避難訓練」のレベルなので、これからは地震や災害を身近なものに感じ、できることからやっていきたいですね。市民の皆さんも安全で安心な暮らしを送るために、「わかっている」から「やっている」に意識をちよっと切り替えませんか。そうすると自然と備えができてくるでしょう。

こんなものも必要です

そうね。家具を固定したり、非常持出袋を準備したりするのは知っているけど、そのほかには何かあるかしら。

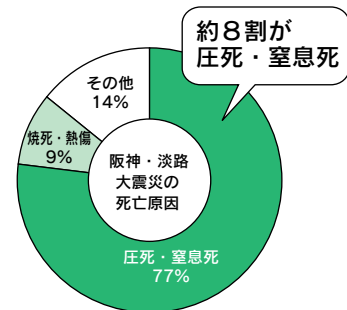
これも被災した人の話なんですけど、地震後、家の中は割れたガラスや倒れた家具などが氾濫し、靴がなければ家の中から避難することができなくなるから、「寝室にスリッパか靴を置いておく」のがお勧めだつて。

なるほどね。確かにそう言われるとそうね。ほかには何か聞いてない。何と言っても一番困ったのは生活用水だつて。水がないと何もできないので、いざという時のために、寝るときには枕元にペットボトルの水を置いていって話でしたよ。



阪神・淡路大震災からの教訓

死亡原因のうち約80%が家屋の倒壊や家具の転倒による圧死・窒息死です。大地震で被災しないための第一歩は家屋と家具が倒れないようにすることのようです。



グラフは、「阪神・淡路大震災調査報告総集編」より

「わかっている」の「一歩先へ

やらないといけないというのとはわかってはいるんですが、どこかでまだ大丈夫だろうと意識があるの